



ふるさと名物

Furusato Meibutsu

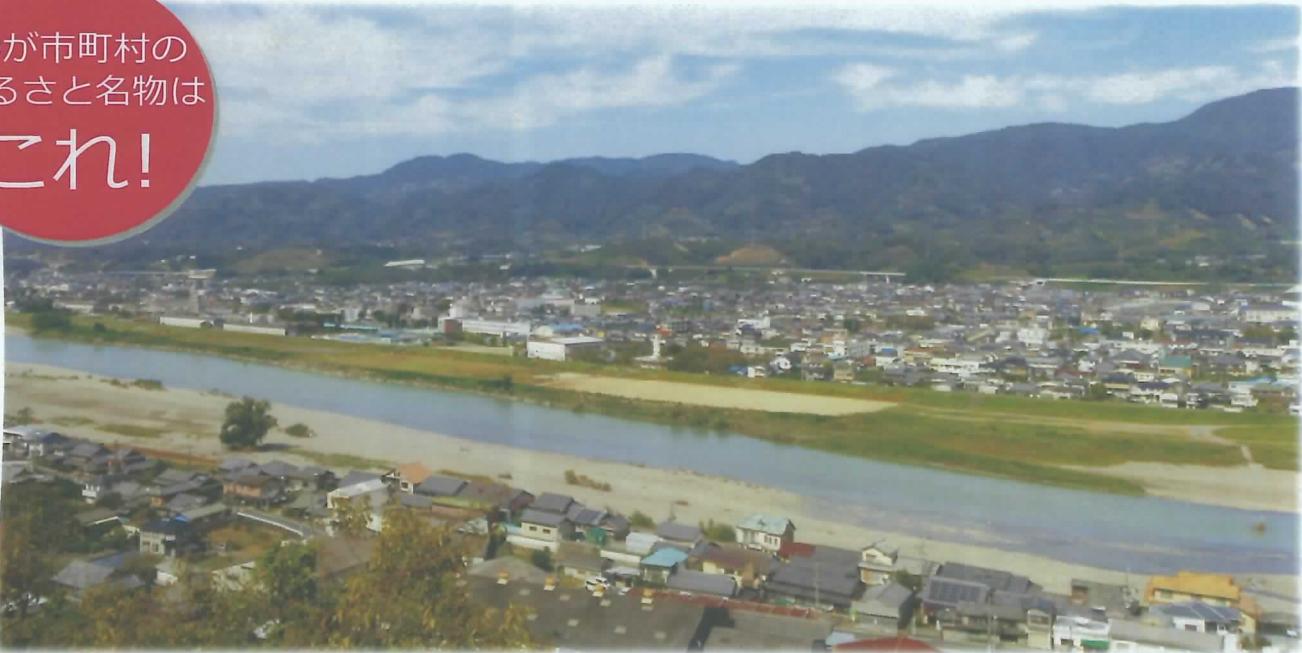
和歌山県かつらぎ町

が応援するふるさと名物

農産物加工品群と
紀の川水系の歴史・自然
を楽しむツーリズム



わが市町村の
ふるさと名物は
これ!





ふるさと名物
Furusato Meibutsu

平成30年3月1日

応援宣言

和歌山県かつらぎ町

地域の プロフィール

○人口17,155人
(H30年1月末現在)
○面積151.69km²

東西は京奈和道、南北は
国道480号が通っており、
交通の要衝となっている。



かつらぎ町は和歌山県北東部に位置しており、地勢は北部に和泉山脈、南部に紀伊山地を仰ぎ、町中心部に紀の川が南部には有田川が流れています。「水の国、わかやま。」に相応しい環境を有しています。気候は瀬戸内気候区に属し、降水量は比較的少なく、年間の気温の高低差が大きい、内陸性気候の特徴も併せ持っております、年間を通じて比較的温暖で乾燥した気候です。

紀の川水系に属するかつらぎ町は紀の川の清き流れと高野山麓、和泉山麓の水脈に囲まれた、緑豊かな自然に恵まれたまちです。先人の築いた歴史と伝統を誇りとし、活力ある豊かなまちづくりを目指しています。この水系には水資源が豊富にあり、これらの水資源をもとに形成された、水、滝、用水路、米、フルーツ、日本酒、世界遺産、国重要文化財等の地域資源を数多く有しています。

紀の川水系流域のかつらぎ町には、世界遺産に登録された紀伊山地の霊場と参詣道[丹生都比売(にうひめ)神社、高野参詣道 町石道、高野参詣道 三谷坂(丹生酒殿(にうさかどの)神社含む)]や国重要文化財宝来山神社等をはじめとする歴史的文化資源や紀の川支流水源域の滝、高野山麓・和泉山麓からの伏流水を用いて作られた川上酒、小田井用水路や河川流域で作られたフルーツとその加工品群、フルーツ観光農園等の「ふるさと名物」を活かし、町全体で観光客をもてなし、訪れる方に本町の新たな価値や魅力を発見してもらえるよう、多種多様な地域資源をつなぐことで魅力ある地域づくりを進めていきます。

ふるさと名物の概要

概 要

◆農作物加工品群と世界遺産等の観光資源を活用したツーリズム

本町は「フルーツ王国」とも呼ばれるほど、紀の川水系の資源をもとに一年中おいしいフルーツがたくさんとれます。気候条件が適地であることから、古くから農業を基幹産業として発展してきました。特に傾斜地を生かした多種多様なフルーツの生産をはじめとした、農作物の生産が盛んで、中でも柿は日本有数の産地となっています。

また、紀の川の豊富な水源により作られたフルーツや農作物を活用した様々な加工品群も盛んに生産され、フルーツを観光面にも活用した、様々なフルーツ観光農園があります。さらに紀の川流域には世界遺産を初めとした、歴史的文化資源が数多く存在しています。

本町の美しい景色を堪能しながら文化遺産では悠久の歴史を感じ、おいしい果物を食べつくすといった農産物加工品群と観光資源を活用したツーリズムにより、地域の活性化を目指します。

ふるさと名物の内容

◆紀の川水系の水

紀の川水系には、豊富な水量を誇る紀の川とともに弘法大師空海にちなんだ水に関する伝説が数多く残っており、古くから名水の場所として知られ、1200年の歴史を持つ聖地高野山を巡礼する人々に愛され続けている天然水です。

また、高野山麓、和泉山麓から紀の川に注ぐ豊富な伏流水は両山麓の大地のミネラル成分を豊富に含み、おいしい水（ミネラルウォーター、飲料群）として知られています。

【地域資源】紀の川水系、高野山麓の伏流水



紀 の 川

ふるさと名物の内容



フルーツ等加工品群



イチゴ畑



ナシ果樹園



トマト畑

◆フルーツ加工品群、フルーツ観光農園

●かつらぎ町は別名「フルーツ王国」とも呼ばれ、紀の川水系の水資源をもとに一年中おいしいフルーツがたくさんとれます。比較的温暖な気候の本町は、古くから農業を基幹産業として発展し、傾斜地を生かしたフルーツの生産が盛んです。果樹園は全農地の大部分を占め、様々なフルーツが生産されています。特に柿は日本有数の産地で本町四郷(しごう)地域の串柿は毎年秋になると自然乾燥させる柿色の蒂が幾重にも並ぶ壯觀な様相を見せています。

●また、フルーツを利用した様々な加工品群(ジュース、缶詰、柿酢、あんぽ柿、串柿等)も盛んに生産されています。

●これらのフルーツ農園は観光農園として、四季折々、おいしいフルーツを一年を通して、直接その場で味わえる体験型農園として非常に好評を得ています。

【地域資源】イチゴ、カキ(柿)、ウメ、南高梅、モモ、スマモモ、ブドウ、トマト、ミニトマト、ナシ、リンゴ、クリ、キウイフルーツ、温州ミカン、なつみかん、はっさく、清見、いよかん、ネーブルオレンジ、セミノール、ぽんかん、ユズ、三宝柑、イチゴ畑、カキ(柿)果樹園、ウメ果樹園、南高梅果樹園、モモ果樹園、スマモモ果樹園、ブドウ果樹園、トマト、ミニトマト畑、ナシ果樹園、リンゴ果樹園、クリ果樹園、温州ミカン果樹園、なつみかん果樹園、はっさく果樹園、清見果樹園、いよかん果樹園、ネーブルオレンジ果樹園、セミノール果樹園、ぽんかん果樹園、ユズ果樹園、三宝柑果樹園、四郷の串柿



四郷の串柿



リンゴ果樹園



カキ(柿)果樹園



みかん果樹園



モモ果樹園



ブドウ果樹園



ウメ果樹園



クリ果樹園

◆国重要文化財 宝来山(ほうらいさん)神社

- 宝来山神社は奈良時代に和氣清麻呂(わけのきよまろ)が八幡宮を勧請したことから始まり、猿田彦大神(さるたひこのおおみかみ)をはじめ四神を祭神とする一間社春日造(いっけんしゃかすがづくり)の色鮮やかな四社殿(よんしやでん)が横一列に美しい姿を見せており、本殿は国の重要文化財で、末社二殿も県の文化財に指定されています。
- 神社の裏側には文覚上人が開削したといわれる県指定史跡の文覚井(もんがくゆ)と言われる農業用水路や、当時紀の川の流れが神社の大鳥居付近まで蛇行していたことから、そこに船を泊め参拝したという「船つなぎ松」跡があり、紀の川との繋がりが深い神社です。

【地域資源】宝来山神社



文覚井



宝来山神社

ふるさと名物の内容

◆川上酒(かわかみざけ)、天野米加工品



初桜酒造 酒樽

●川上酒は、紀の川水系の名水とその水で育まれた米、さらには紀北(和歌山県北部)の恵まれた気候により多くの酒蔵が酒造りを競う、紀州一の酒造地帯で、江戸時代の半ば約300年前から、紀の川の上流(川上の由来)で造られた風味豊かなお酒です。万葉の里の大和街道に沿って、酒蔵16軒が東西に軒を連ね、遠く大阪・京・江戸まで送られており、その名は全国に轟いていました。また、現存する川上酒の酒蔵(初桜酒造)は国の登録有形文化財となっています。

川上の酒蔵は弘法大師空海が高野山開創から関係の深い、丹生都比売神社のある本町天野地区の名産“天野米”と“高野山山麓・和泉山麓の伏流水”を使用し、日本酒を製造しています。開創当時の高野山では“飲酒禁制”でしたが、弘法大師空海は「塩酒一盃(おんしゅいっぽい)これを許す」と酒の効用を認め、高野山では酒を“般若湯”と呼んで愛飲し、現在も愛飲され続けています。

紀の川水系の水・米加工品としてだけではなく、文化財である酒蔵見学及び試飲会などが行われ、観光資源の一つとして期待されています。

●天野米は本町天野地区の標高450mの冷涼な気候、高野山麓の清涼水を活かして生産されているブランド米です。この米は「高野山真言宗総本山金剛峯寺御用達米」として認定されています。【地域資源】日本酒、天野米



初桜酒造



川上酒



初桜酒造 杉玉



天野米

ふるさと名物の内容



丹生都比売神社



丹生酒殿神社



高野参詣道町石道



高野参詣道三谷坂

◆ 世界遺産 紀伊山地の霊場と参詣道

～丹生都比売(にうつひめ)神社、高野参詣道 町石道、高野参詣道 三谷坂 (丹生酒殿(にうさかどの)神社含む)～

● 丹生都比売神社は本町の南部、標高450mの天野盆地に鎮座しており、約1700年前に創建されたと伝えられています。また、弘法大師空海が金剛峯寺を開創する際に丹生都比売神社が神領を貸与したと伝えられ、古くより高野山と深い関係にあり、以来真言密教の守護神としても知られています。

● 丹生都比売神社背後の尾根沿いには高野山への表参道である高野参詣道町石道が通っています。

● 高野参詣道三谷坂 は、丹生酒殿神社を起点とし、丹生都比売神社に参詣し町石道へあるいは笠松峠から直接町石道へ上る高野参詣道です。坂道が連続する急峻な山道ですが、参詣の近道であり、かつて勅使が通ったことから「勅使坂」とも呼ばれます。かつて三谷津と呼ばれる「三谷の渡し場」があり、紀の川から丹生都比売神社へ参詣する人々の登り口でした。丹生酒殿神社の社名は、丹生都比売神がこの地に初めて降臨した際に紀の川の水で酒をつくり神前に供えたことに由来するといわれています。丹生酒殿神社の境内にはイチイガシをご神木とする「鎌八幡宮」があり、祈願成就のため無数の鎌が打ち立てられています。

◎これらの地域資源はユネスコの世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の一部として登録されています。

【地域資源】世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道・高野地域」、高野参詣道

ふるさと名物の内容



小田井用水路
(龍之渡井付近)

◆小田井用水路

[登録有形文化財：龍之渡井（たつのとい）、小庭谷川渡井（こにわだにがわとい）、中谷川水門]

小田井用水路は1707年「治水の神様」と呼ばれた大畠才蔵が徳川吉宗の命を受け、開削を行いました。紀の川北岸の、河岸段丘地域の灌漑（かんがい）対策として、紀の川から取水する全長32.5kmにもなるこの用水路は作られました。

工法としては、江戸時代当時最先端の技術である伏越（ふしごえ）[サイフォン]や渡井（とい）[水路橋]による立体交差でいくつもの河川と交差させるなど、流域の経済力や歴史、文化を育んできました。

この用水路の完成により、紀の川流域に約1,000haの広大な農地が生み出され、この工法は紀州流土木工法として全国に普及し、大規模な灌漑による田畠の拡大と新田の開発に大きな業績を残しました。2017年10月に、世界かんがい施設遺産へ登録されました。また、本町内にある、龍之渡井[水路橋]、小庭谷川渡井[水路橋]、中谷川水門[サイフォン]は国の登録有形文化財に指定されています。

【地域資源】小田井用水路（「龍之渡井」、「小庭谷川渡井」、「中谷川水門」含む）



小田井用水路
(中谷川水門付近)



龍之渡井



小庭谷川渡井



中谷川水門

ふるさと名物の内容

◆文蔵の滝、三重(さんじゅう)の滝、薬師の滝

本町には、紀の川の水量を支える多くの支流があり、その流域には文蔵の滝、三重の滝、薬師の滝をはじめとして、多くの滝が存在します。

- 文蔵の滝は修行場として名高く、文覚上人(もんがくしょうにん)が荒行を行ったことで有名です。
- 薬師の滝は奇岩、怪岩が並び立ち、両岸に老樹が生い茂り、仙境の様相を呈しています。
- 三重の滝は上から聖宝の滝、不動の滝、潮の滝があり、そのうち不動の滝が上段・中段・下段 と三段になって流れ落ちる事からこの名で呼ばれています。

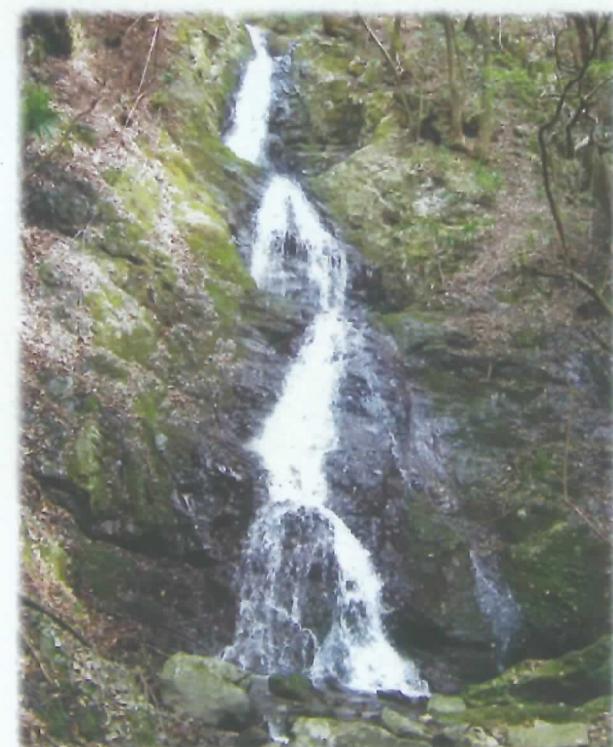
【地域資源】文蔵の滝、三重の滝、薬師の滝



文蔵の滝



三重の滝



薬師の滝

展開

- 地域資源をつなげ、新たな観光資源としてフルーツ、世界遺産、重要文化財、自然資源等を活用したツアー・イベントなどの事業を応援し、観光振興を行います。
- 基幹産業である農業において、土産物品等の農産物加工品開発と販路開拓に関して、地域ブランド化の促進を応援します。
- 近隣市町・商工会等と連携して共通のフルーツ加工品群及びツーリズム商品に関する事業を応援し、観光誘客を目指します。
- 都市部の展示会・イベントや道の駅・高速道路PA等で積極的に本ツーリズムのPRを行い、SNSなど様々な媒体での情報発信方法を検討していきます。

かつらぎ町の取り組み

ふるさと名物
活用イベント

◆高野参詣道 三谷坂ウォーキングイベント (世界遺産三谷坂春風ウォーク等)

県や近隣市町と連携して、本町の世界遺産である高野参詣道三谷坂、丹生都比売神社、丹生酒殿神社等の地域資源を活用したウォーキングイベントを定期的に開催しております。

○コース概要 距離：7km 所要時間：2時間30分～3時間

最寄駅(受付、スタート) → 世界遺産 丹生酒殿神社

→ 世界遺産 高野参詣道 三谷坂 → 天野の里

→ 世界遺産 丹生都比売神社 (ゴール)

○イベント

ゴール到着後も「丹生都比売神社の由緒説明」や「天野の里ウォーク」といった催しがあり、非常に好評を博しているイベントです。



丹生酒殿神社



丹生都比売神社



丹生都比売神社・輪橋



かつらぎ町の取り組み

ふるさと名物
販路開拓

◆特産果樹加工品等販路開拓活動

県や近隣市町と連携し、地域の特産果樹加工品等について販路開拓活動を定期的に実施しています。

○果樹加工品等の展示・即売会への参加を積極的に実施しています。

○本町の特徴である一年中四季を通じて楽しめる観光農園のPR活動を行っています。



友好都市での展示・即売会



国内展示・即売会



国内展示・即売会

町長からのメッセージ

かつらぎ町は、町の中央をゆったりと流れる紀の川や高野山麓、和泉山麓からの豊富な水資源と緑豊かな自然に恵まれた町です。

本町には、この豊かな水資源や自然により形成された、日本一を誇る四郷の串柿をはじめとした農産物加工品やフルーツ観光農園、弘法大師空海に般若湯と呼ばれ高野山で親しまれた川上酒、また、世界遺産に登録された紀伊山地の靈場と参詣道[丹生都比売(にうつひめ)神社、高野参詣道 町石道、高野参詣道 三谷坂(丹生酒殿(にうさかどの)神社含む)]をはじめとする歴史的文化資源や江戸時代に全国へ広まった紀州流土木法で世界かんがい施設遺産の小田井用水路など多種多様な地域資源があります。

今後、こうした様々な地域資源を地域ぐるみで広く情報発信するとともに地域や事業者が、これらの地域資源を産業資源として利活用し地域経済の発展を図るため、ふるさと名物として「農産物加工品群と紀の川水系の歴史・自然を楽しむツーリズム」を応援していく事をここに宣言します。



平成30年3月1日

かつらぎ町長 井本 泰造